

令和4年度上京区民まちづくり会議「上京！MOW」 ～上京の新しいまちづくりを生み出す場～実施報告書

日時： 令和4年10月3日(月)18:00-20:00 会場： 西陣織会館



上京区役所では、「上京区基本計画 2025」(以下、「基本計画」という。)に掲げるまちづくりの将来像の実現に向けて、上京区民、上京でまちづくり活動をしている団体の皆様と意見交換を行い、具体的な取組を推進するための「人や団体がつながる場」として、上京区民まちづくり会議「上京！MOW」を開催しました。

今年は、「西陣」という名の由来となる応仁の乱からちょうど555年の節目にあたります。その記念事業として「西陣 CROSS Week 2022」(11/11～15)が繰り広げられる西陣織会館に参加者53名が集まりました。

冒頭に全体の話題提供として、基本計画と密接にかかわる「脱炭素社会」をテーマに、京都市地球温暖化対策推進室から地域の環境活動や「京都発脱炭素ライフスタイル推進チーム～2050 京創ミーティング」の取組が紹介された後、9つのグループに分かれ、出会いと対話を楽しみながら意見交換が行われました。





プログラム

- 18:00 あいさつ（新川議長、大槻西陣織会館館長）
 18:05 基本計画・上京区民まちづくり活動支援事業
 上京!MOW 部門 説明
 18:15 話題提供「脱炭素ライフスタイルの実現を目指した環境活動」
 18:30 意見交換
 <テーマ>
 1 環境から考える「衣食住」
 2 歴史と文化
 3 暮らしを守る地域の絆
 4 「西陣」の活性化
 5 若者の力・空き家の活用、商店街・観光の活性化
 6 子ども・高齢者への支援
 19:50 総括（新川議長）
 20:00 終了

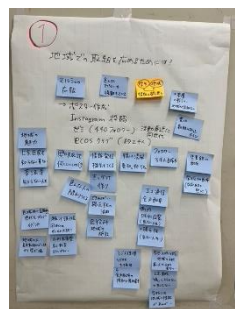
話題提供「脱炭素ライフスタイルの実現を目指した環境活動」

2050年の京都における脱炭素社会と将来世代が夢を描ける豊かな社会を同時に実現するため、令和3年9月に「2050京創ミーティング」が発足しました。



上京での脱炭素ライフスタイルの取組として、以下のとおり紹介されました。

- ・ 堀川清掃や子どもたちとの堆肥づくりを定期的に行い、活動状況を便り等で伝える中立エコ生活推進会議の取組
- ・ グリーンカーテンを設置して夏の暑さを軽減し、地域交流を促す乾隆学区の取組
- ・ 京極小学校等が参加する鴨川の天然アユをきっかけに地域の自然と気候変動の関係を考える活動
- ・ 区内の事業者による食品ロスの取組



意見交換

テーマ1 環境から考える「衣食住」

地域の方々と大学生が互いの活動を伝え、広報の仕方について話しました。また、脱炭素社会に向けて環境に配慮した活動を身近な人に広げるための工夫について意見を交わし、最後に脱炭素ライフスタイルの転換に向け、ご自身取り組みたいアクションを宣言いただきました。

<意見の一例>

- 地域活動では全戸配布や掲示板、回覧板を通じた周知を行い、大学生による活動では主にインスタグラムなどの SNS による周知を行っているため、互いに足りない部分を補足し合うのが良いのではないかと。
- 環境問題に取り組むことは意外と簡単で、これまでどおりの暮らしに制限をかけるものではないことを理解してもらう工夫が必要では。
- 子どもたちが堀川清掃や植栽、ロケットストーブを使う体験をすることで、自然への感謝や、地球環境の大切さを知ってもらうことが大切。

<取り組みたいアクション>

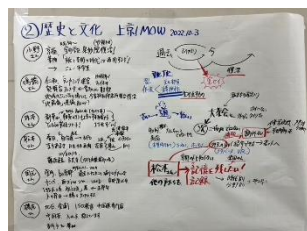
- 学区内でエコについて、理解を深めていただく活動を続けていきたい。
- 学生が行動するきっかけづくりに関与したい。
- 地域の方々とつながって、サステナブルな地域をつくりたい。
- 子どもからお年寄りまで無理なくできる活動をお知らせする。エコ活動！学生の方にも応援してもらう。

テーマ2 歴史と文化

上京の街並みや暮らしの基にある歴史や文化を継承していくため、2025 年とその先を見据えてどのようなことができるか意見を交わし、アイデアを出しました。

<意見の一例>

- これまでの大規模、大人数、テーマパークのような楽しさに代わり、小さくても知的で、文化の本質を捉えたものを上京から発信したい。茶道や華道などの「道」に通じるもの、文化の背景にある精神性・心に触れるものをこれから伝える必要があると思う。
- 地元の人でしか知りえない詳しい歴史、情報を知っている人の知識・記憶を残し京都内外の人に紹介していきたい。時代やテーマに分けて、地図やインターネット、動画など様々な手段で伝えたい。
- 平安時代から続く百人一首の世界を子どもたちに伝えてみたい。子どもたちが興味を持つようにマンガやゲームをいかしてみてもどうか。百人一首にちなんだまち歩きをして、短歌を詠むなどしたら、大人も関心を持つのではないかと。



テーマ3 暮らしを守る地域の絆

Aグループ

参加者が携わる仕事や活動について話すことによって、学区の特徴や課題を知ることができました。

<意見の一例>

- 会長や副会長の高齢化、長期化で、若い世代が入りにくくなっている。若い世代が地域に関われるように役員が配慮する必要がある。
- 外国人も出身国によっては災害に慣れておらず、避難の仕方が分からない場合もある。防災面で、分かりやすい日本語で外国人とコミュニケーションを取れるよう活動している。
- 地蔵盆や運動会などの地域のまつりには文化や歴史がある。まつりは単なるイベントではなく、人々の心がつながる地域住民の連携の場。

Bグループ

地域の自治組織である住民福祉協議会の成り立ちや役割を共有したり、上京区民まちづくり活動支援事業に採択された団体メンバーがパンフレットなどを用いて活動を紹介したりするなど、互いの活動を理解しました。

<意見の一例>

- 絆・つながりをつくりたい。地域の代表の方に会うのは実は難しく、どこに誰がいるのか分からない。
- 地域の絆づくりでは、監視(カンシ)ではなく、関心(カンシン)を持つ。
- 活動のパンフレットを手渡ししたり、掲示板に情報を貼ったり、人が集える場をつくったりと、多様な形で情報が交わされることは大切。

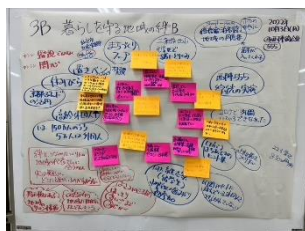
テーマ4 「西陣」の活性化

Aグループ

西陣×〇〇の組合せの多様さを見せることで、多くの人を訪れ、賑わいが生まれる仕掛けをつくれるのではないかと意見を出しました。「産業としてだけでなく文化の起点として西陣を捉え、事業者、アーティスト、若い人たちの力をいかして西陣の魅力を高めていこう」と、同じグループで継続的に検討する機運が生まれました。

<意見の一例>

- 若い人のパワーを西陣の力に！
- 多様な変化が見える状況をつくるには、同時多発的発信も必要。
- 観光として西陣に多くの人を訪れるような仕掛けや、西陣に関心が向き、西陣×〇〇に取り組む企業の誘致や新たな産業が生まれる仕掛けができれば。



B グループ

西陣での暮らしについて、これから若い人に住んでもらうにはどうすれば良いかという話題を中心に議論しました。

<意見の一例>

- 地域を歩いて、西陣を知ってもらいきっかけに。町名の由来を知ったり、学生がまち歩きを企画したり、着物を着て歩いたり、職人の話を聞いたりするなど、歩いて体験する機会があればよい。
- 若い世代が上京に住んでいない。外に出てしまう。
- 上京の人は上京で消費するように、学生が西陣でアルバイトをして、西陣でお金を使うように工夫できないか。学生向けの「バイト代上乘せクーポン」などがあれば。

テーマ5 若者の力・空き家の活用、商店街・観光の活性化

テーマが多岐にわたるこのグループでは、一人ずつ自身のことや活動について語り、それを聞いた他の参加者から質問を投げかける形で意見交換が行われました。

<意見の一例>

- コロナ禍で大学生生活を満喫できないと感じる中で「何かやろう」と学生団体を立ち上げ、写真展を開催した。地域密着で、学生の拠点になるような活動をしていきたい。
- 空き家が地域にあっても、他人の家なのでよほど何かない限り何も言えない。地域は空き家の発生を予防する。
- 京都の人が京都を知らないの、観光ののびしろはある。

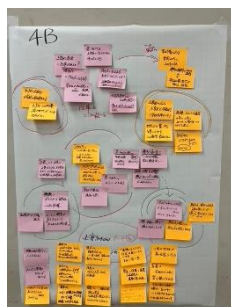
テーマ6 子ども・高齢者への支援

A グループ

高齢者支援やひとり親家庭に対する支援に関わる参加者が、事業や活動を通じて感じる課題を共有し、課題解決に向けたアイデアが生まれました。

<意見の一例>

- 上京は後期高齢者の割合が高く、要介護出現率が市内で最も高い。
- 支援が必要な人ほどつながりが弱い「つながりの貧困」がみられる。
- 路地やお寺での地域のつながりづくりとして、体操をしたり、花を育てたり、ベンチを置いてみるなど「路地自慢コンテスト」を開いて路地の有効活用の仕方を地域で共有してみても。



Bグループ

子ども・高齢者への支援について気になることを一人ずつ伝え、共に考え、意見を出しました。また、参加者が携わっている地域活動やイベントを伝え合いました。

<意見の一例>

- インターネットに情報があふれているため、かえって子育てに迷ってしまう。
- 引きこもりの子どもなど中高生へのアプローチが気になる。
- 民生委員の役割は時代によって変わっていると感じるが、虐待の疑いのある家庭の把握など、民生委員の重要性は変わらない。また、「民生委員なら」と信頼して、話や相談をする人もいる。

新川議長の総括

色々なテーマで議論が進められる中、複数のテーブルで「何ごともしやってみないと分からないので、まずはきっかけをつくること、人々が体験すること、そのためのとっかかりをつかめる場を広げていくことが大事だ」という意見が共通して見られたように思います。居場所づくりやまちの本箱、花を植えて育てる活動、街並みの良さを始め魅力を見つけるまち歩きなど、具体的な場や取組が聞かれました。

上京のまちづくりと出会うきっかけをつくり、場、あるいは手がかりを出し合う。そして、みんなで体験して広げていく。上京！MOWがそれらを進めていくような場になればと願います。

意見交換後の気づき・感想

- ・ 学区の指針となる方向性が見出せるように思えました。
- ・ 自分の活動している団体以外の活動を聞き、非常に参考になりました。見に行きたいです。
- ・ 各地域での行事、催事等発信する方法が大事だと感じました。
- ・ 若者は全世代をつなぐ架け橋になれます。
- ・ 今日の皆さんの意見をお聞きして、私の中で一つのアイデアが生まれました。これから、もう少し掘り下げてみたいです。
- ・ 大学入学を機に上京に来ましたが、多くの知らなかった地域活動や参加者の皆さんの目標が聞けてとても面白かったです！
- ・ つながれるきっかけとして路地やお寺を活用した具体的な取組アイデアが出てきて、とても有意義でした。
- ・ みなさん、色んな視点を持っておられて面白かったです。
- ・ テーブルを囲んだからこそ生まれたアイデア！！話を交わすことの大切さを子どもにも。
- ・ 子ども、障がい、高齢…様々な視点からお話ができ視野が広がりました。

